

## 平成29年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 平成29年7月18日(火) 18:00~20:00

場 所 かでる2・7 510会議室

出席委員 松本会長 / 藤井委員 / 富田委員 / 梅田委員 / 猪股委員 / 亀井委員 / 瀬川委員 / 川島委員 / 山田委員 / 稲葉委員 / 内藤委員 / 遠藤委員 / 五嶋委員

事務局 花岡子ども未来推進局長 / 永沼子ども子育て支援課長 / 森本自立支援担当課長 ほか

### 議 事

#### [審議事項]

#### (1) 「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の推進状況について

○事務局から、資料1に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

・待機児童解消のためにも、保育所や認定こども園などについて、自宅の近くだけではなく出勤途中など利用者のニーズに応じて枠の広いエリアで選択できるようにした方が良い。

・厚労省では待機児童数のカウントの仕方を変更することだが、北海道としての考え方も示して欲しい。

・保育士不足の対策として、昨年より実施している保育士配置の特例の今年度の実施状況について確認したい(事務局より平成29年6月1日現在の実施状況を説明)。

・子育て支援員については現場で非常に頼りになる存在であり、その研修については今後も続けていただきたい。また、保育士就学資金等貸付事業については、潜在保育士の就職支援などにも有効な制度なので、道でも強いPRをお願いしたい。

・地域子育て支援拠点の従事者を対象とした研修について、政令市等も含めた全道規模の研修と振興局ごとの研修の両方の充実により、拠点の数だけではなく質の向上につなげていただきたい。また、子ども子育て支援新制度とともに開始された利用者支援事業についても、道として取組を進めていただきたい。

・計画では、仕事と家庭の両立に向けての気運の醸成に取り組むこととされているが、具体的にワークライフバランスを整えていくための支援についても考えて欲しい。

#### (2) 平成29年度北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の運営について

○事務局から、資料2に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

・今回は保育士体験も行うということなので、体験を通して、何が面白かったのかとか、子どもの今に資するためにはどうしたらいいかということを含めて議論して頂きたい。

(3) 平成29年度「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」について

○事務局から、資料3に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・平成28年度には子育て支援活動を継続的に行っている企業も受賞しているが、今後応募者を増やすために、振興局で登録している「あったかファミリー応援企業」のように入札に参加しやすくなるなどのインセンティブをつけてPRする方法もあると思う。

[報告事項]

・北海道子どもの生活実態調査結果について

○事務局から、報告資料に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・家庭の事情で進学しない高校生について、子育て支援員研修が受けられるのであれば、子育て支援員としての雇用ができる。また、保育士修学資金についても、知らない人が多いので、もっと高校に周知して欲しい。

- ・生活福祉資金や母子父子寡婦福祉資金などについて、制度やサービスについて知らない方が多いことに驚いた。もっと地域でも制度の周知を図っていききたい。

- ・ひとり親家庭への支援制度の周知について、離婚届を提出した時に、どのような支援制度を利用できるのかを、その場で伝えられるようにすると良いと思う。

- ・ひとり親世帯の収入の低さが問題となっているが、それ以外の場合でも非正規から正規職員になるのは難しいことから、その後押しもして頂きたい。

- ・医療機関を受診しなかった理由として「仕事で時間がなかった」とする割合が高く、保護者が非常に忙しい状況に追い込まれているのだなということを感じたので、子どものために休みやすい環境づくりといった部分を施策に反映して頂きたい。

- ・子どもを医療機関に連れて行くためには、他のきょうだいを預かってくれる子育て支援サービスの利用料と医療費の両方が必要となることから、金銭面のバックアップも進めて欲しい。

- ・父子家庭の父親が、誰にも相談することができず孤立するような状態が窺えるため、従来の子育ては女性という役割分担にとらわれずに、男女がともに苦労を担うという観点から施策に反映して頂きたい。

- ・父子家庭の方の話として、いざ子育てをしようと思ったときに、まず子育ての用語が分からないということがあったので、そういった情報提供も検討して頂きたい。

- ・父子家庭だけではなくて、両親そろって育児をされている方のお父さんを巻き込んで行くような仕掛けも必要。